

親と子の 古墳めぐり

2003年5月5日



備陽史探訪の会

今日の予定表

午前8時40分 福山駅前に集合(⇒受付後、中国バス5番乗り場へ)

9時10分 中国バス「服部」ゆき出発

45分 「永谷」バス停下車(大人610円・子ども300円)

⇒泉竜寺へ移動し、朝のあいさつ

10時00分 泉竜寺を出発!

10分 「北塚古墳」に到着・見学(講師:網本)

11時00分 「大迫古墳」に到着・見学(講師:山口)

12時00分 服部大池に到着 ⇒ お昼ごはん。クイズ大会も!

午後1時00分 服部大池を出発

15分 「権現塚古墳」に到着・見学(講師:網本)

50分 「狐塚古墳」「高塚古墳」に到着

⇒ 班ごとに2つの古墳を見学(講師:安原・山口)

2時30分 「二子塚古墳」に到着・見学(講師:篠原)

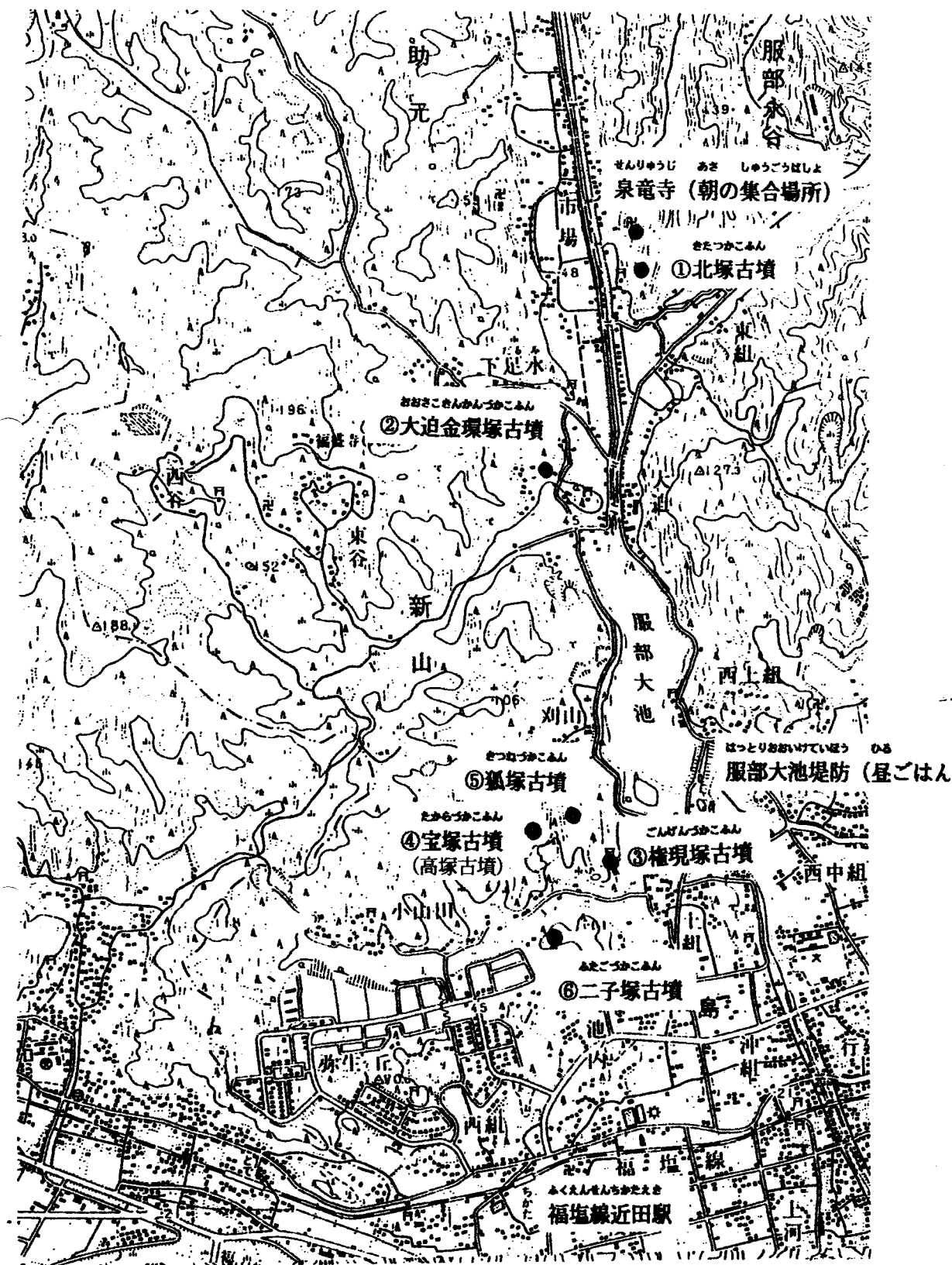
3時すぎ 終りのあいさつ・解散

※ 近田駅(福塩線:二子塚古墳から徒歩約20分) 発福山行

3時13分・3時55分・4時36分

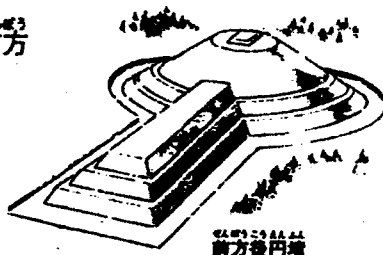
親と子の古墳めぐり 3つの約束

- ① 交通ルールを守って歩こう!
- ② 班長さんの言うことをよく聞こう!
- ③ ゴミは持ち帰るか、ゴミ箱に捨てよう!

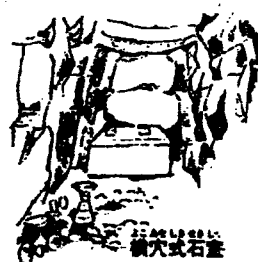


年代	時代	できごと
300	弥生時代	<p>邪馬台国の女王ヒミコが 中国に使者を送る</p> <p>この頃から、前方後円墳 がつくられはじめる</p>
400	古墳時代前期	<p>東日本でも、大型の前方 後円墳がつくられる</p>
500	古墳時代中期	<p>近畿を中心に巨大な前方 後円墳がさかんにつくら れる</p> <p>横穴式石室が、全国に広がる</p>
600	古墳時代後期	<p>群集墳がつくられる</p> <p>聖徳太子が摂政となる</p> <p>大化の改新</p> <p>大きな古墳はほとんど つくられなくなる</p> <p>各地で寺院がつくられる</p>
700	飛鳥時代 奈良時代	<p>奈良に都（平城京）が つくられる</p>

女王ヒミコ



前方後円墳



横穴式石室



群集墳



古墳時代とは…

いまからおよそ1700年前、弥生時代が終わった紀元約300年頃から700年頃までの400年間は、巨大な墓づくりが行われた時代でした。そこでこの時代を「古墳時代」といいます。

弥生時代にも墳丘墓と呼ばれる大きな墓がつけられました。これらの墓は、各地域ごとに独自につくられ、形にもいろいろありました。ところが古墳時代には全国的に共通した形と内容をもつ古墳がつけられました。

各地域のリーダーである有力者は巨大な墓である古墳に葬られましたが、古墳はただの墓でなく、儀式を行う場所でもあり、近畿地方のヤマト政権とのつながりの深さを各地域で確かめる場所でもあったのです。

400年におよぶ古墳時代には、少しずつ変化があります。この古墳の变化から古墳時代は大きく、前期、中期、後期、終末期に分けられます。古墳時代は各種の技術が大きく発展した時代でした。鉄の道具、武器武具や各種の工芸品の生産がさかんになり、これらの生産が集中する地域もでき、それらにはヤマト政権が深くかかわっていきました。

古墳時代はこのような背景をもつヤマト政権が中心となって、日本が一つのまとまった国家として姿をあらわしはじめた時代なのです。

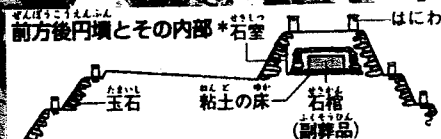
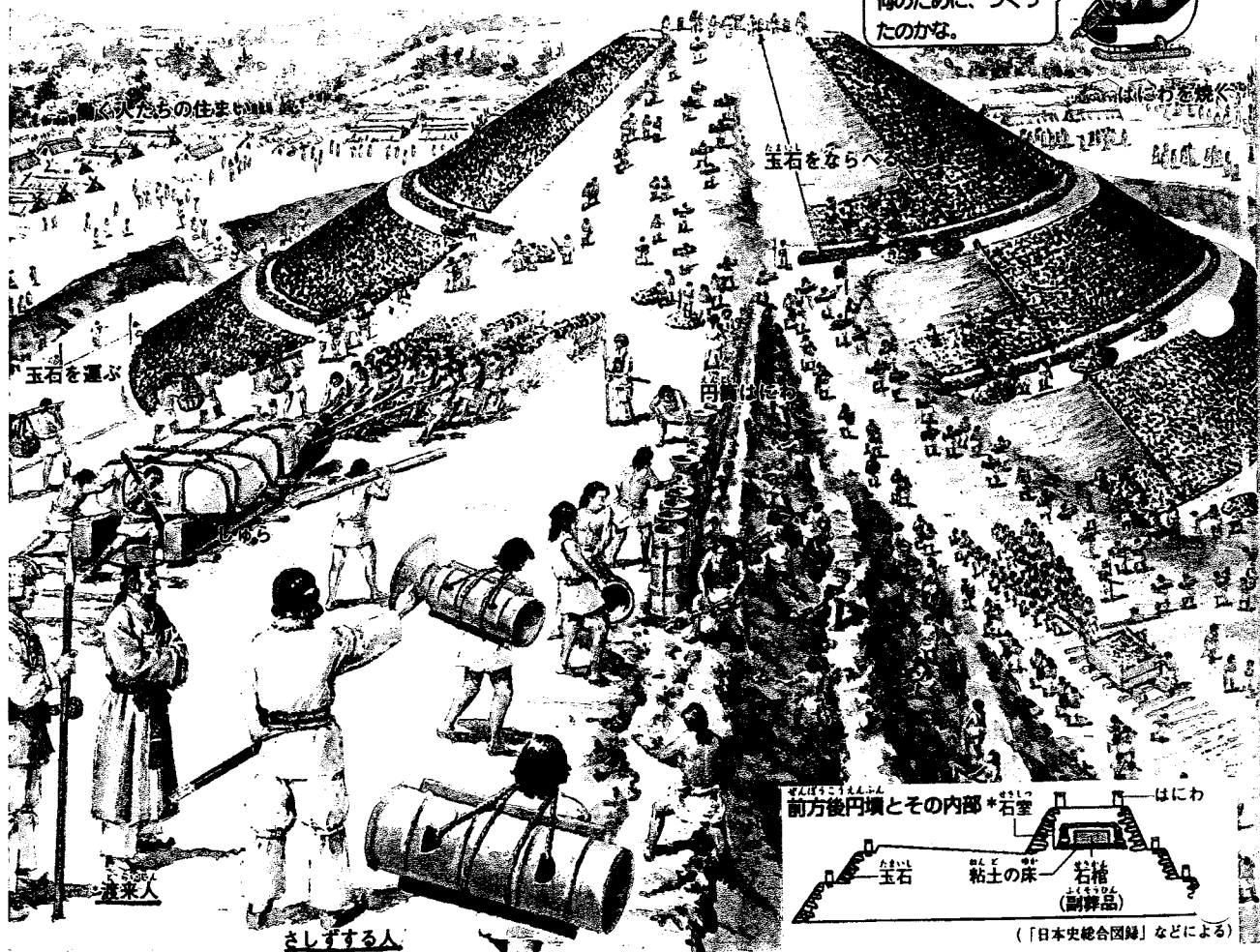
古墳の広がりと国の統一

めあて

古墳の広がりや、どのように
国土が統一されていったのか、
調べてみましょう。

① 中心資料 *古墳づくり

(五畿畿古墳をもとにえがいた想像図)



(「日本史総合図録」などによる)

大和朝廷の国土の統一

●は、世の中の動きに関すること
■は、文化に関すること
▲は、外国との交流に関すること

●4世紀中ごろ

大和 朝廷が国土を
ほぼ統一する → ⑤

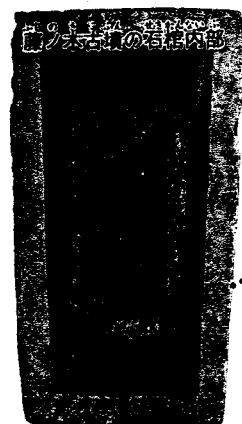
▲5世紀ごろ

●渡来人が漢字・織物
などを伝える

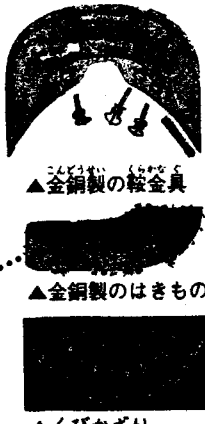
■このころ、各地に
●古墳がつくられる

→ ①②③④⑤

② 参考資料 古墳の副葬品

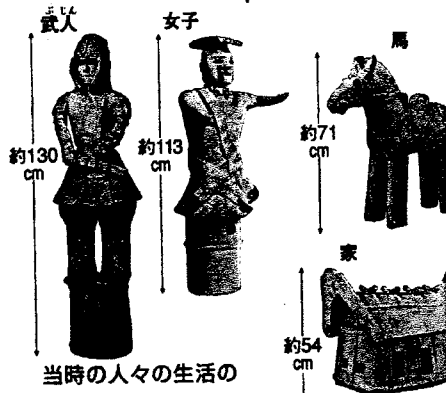


「文化庁許可済」



▲くびかざり

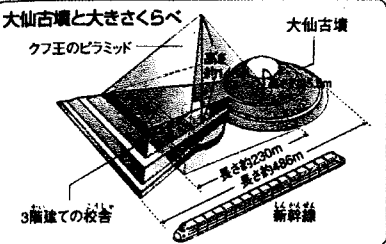
③ 参考資料 古墳から出土したはにわ



当時の人々の生活の
ようすがわかります。

4 参考資料 大仙古墳

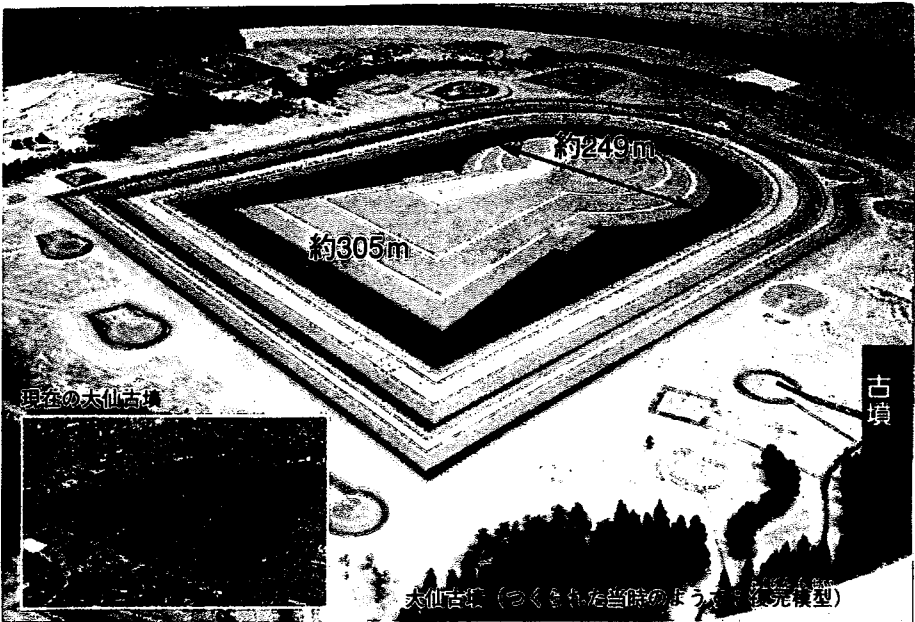
※「大仙古墳」とも書きます。



(大林組の試算による)

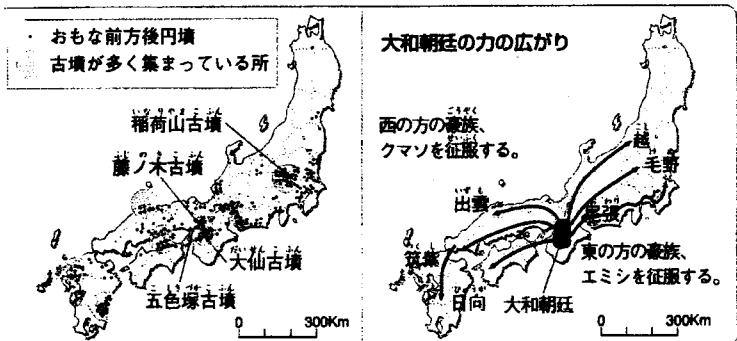
工事の方法	古代の工事	現代の工事
1日あたりの働く人数と工事期間	2000人で、15年8か月	60人で、2年6か月
総費用	796億円	20億円
はにわ製造費	60億5000万円	16億円

※古代の工法…鉄製又は木製のスキや、モッコ・コロなどを使用し、牛馬は使用しない。
 ※現代の工事…クレーン・ブルドーザー・ダンパー・油圧ショベル・コンピュータなどを使用。



仁徳天皇の墓と伝えられる大仙古墳は、面積が世界でいちばん大きい墓です。

5 中心資料 おもな前方後円墳の分布と大和朝廷の力の広がり



6 参考資料 日本の神話

昔、ヤマトタケルノミコトという武勇にすぐれた皇子がいました。皇子は、天皇の命令で、九州の豪族クマソをうち、休む間もなく、東国の豪族エミシをたおしました。しかし、大和(奈良県)へ帰るとちやう、近江(滋賀県)の伊吹山のあたりで、強い雨にあたって病気になる、亡くなりました。人々が皇子を墓にほうむると、皇子は白鳥となって、ふるさとの大和のほうへ飛んでいきました。



(奈良時代にできた日本の歴史書の一部をやさしくしたもの)

奈良時代にできた日本の歴史書には、この話のほかにも、神々の話など、国のなりたちにつながる話がいくつも書かれています。

発見 鉄剣に記された漢字は、何を示す?

埼玉県にある稲荷山古墳から発見された鉄剣には、この地方の王が代々大和朝廷の大王に仕え、朝廷を守る役目をつとめていたことが記されています。

● 稲荷山古墳から発見された鉄剣 (埼玉県立さきたま資料館蔵)

ワカタケル(オオキミ)

まとめ

天皇や豪族は、自分の力を示すために、長い年月と多くの人手を使って、大きな墓をつくった。古墳や、その出土品から、そのころの天皇や豪族が大きな力をもっていたことや、人々の生活のようすがわかる。

大和と地方(奈良県)に、豪族が中心になって、大和朝廷がつくられた。その力は、全国に及んだ。

「ことば」

古墳 三世紀ごろから七世紀にかけてつくられた、天皇や豪族の墓。前方後円墳・方墳・円墳などがある。

石室 死んだ人や副葬品をおさめた古墳内部の石の部屋。

石室の横穴式石室 (単位はメートル)

約4.1

石室 (長さ約8.3) ひつぎや副葬品をおさめる部屋 (約8.2)

約2.1

石室の横穴式石室 (単位はメートル)

約4.1

石室 (長さ約8.3) ひつぎや副葬品をおさめる部屋 (約8.2)

約2.1

はにわをつくらせた。はにわをつくらせた。はにわをつくらせた。

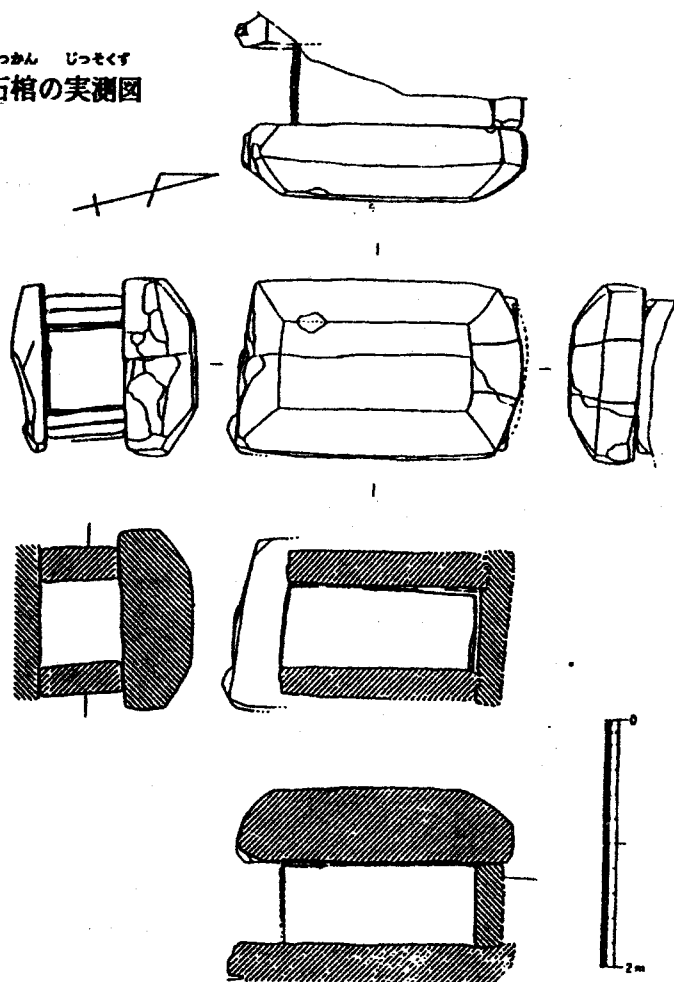
「古墳のこと」について→大阪府立近つ飛鳥博物館ホームページ http://www.mediajoy.com/chikatsu/index_j.html

これから見学する 古墳の説明

①北塚古墳（広島県史跡）

場所は服部川の東側の尾根の上にあります。この古墳は墳丘（古墳の土盛り）がなく、花崗岩でつくった組合式の家形石棺が残っています。古墳の土盛りがないため古墳の形や大きさはわかりませんが、「江戸時代に服部大池の堤をつくる頃、ここの古墳の石材などを運んで近くの池の堤を築いた」という言い伝えがあり、大きな横穴式石室があった可能性ががあります。石棺は形などから西暦600年より少しあと（7世紀前半）につくられたと考えられています。

いせがたせつかん じつそくす
* 家形石棺の実測図



②大迫金環塚古墳（広島県史跡）

場所は平野に向かった尾根の先端ちかくにあります。古墳の土盛りは後の時代にけずられたりしてはつきりしませんが、円墳か方墳と考えられています。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で、南に向かってつくられています。使っている石は花崗岩で石の表面をけずってきれいにしてあります。玄室（遺体をおさめるところ）が大きいところも見どころです。この古墳からは須恵器と呼ばれる焼き物と純金製の金環（耳飾り）1つが見つかっています。

昼休憩のお話

服部大池にまつわる伝説

なみなみと水をたたえた備後一の服部大池には堤防をつくるときの悲しい話が残っています。

江戸時代の初め、備後福山藩の領内9郡の百姓を人夫として、農閑期を利用し周囲4キロメートルの大規模な池の堤防工事が始まりました。この堤防工事はとても難工事で、とうとう人柱を埋めることになりました。

「着物に横つぎのあるものを人柱とする」ことになり、その時たまたま病気のお母さんのかわりに出ていた16才の少女、お糸があたったのです。そしてお糸は堤防の底深く生き埋めにされてしまいました。それから堤防の工事はどんどんはかどっていったそうです。お糸には恋人がいました。死んだお糸をしたって男はできあがった大池に身を投げました。その後まんまと水をたたえた池には2羽の水鳥が仲良く泳ぐ姿が見られるようになりました。村人たちはあわれな二人のために、池のほとりの弁天さんに二人の霊をまつり、松と榎の木を植えたのです。この2本の木はたがいに根をからませて大きくなり、「比翼の木」としてかなしい人柱の話を今に言い伝えてきたのです。

（福山散策より）

③権現塚古墳

場所は平野に向かった丘 陵の先端にあります。古墳の土盛りはながれてしまい、横穴式の石室の上側が見えていますが、もとは直径15メートルをこえる円墳と考えられています。。今は天井石（石室の一番上の石）の上にほこらがまつられています。この古墳は石室の形から西暦550年より後（6世紀後半）につくられたものと考えられています。

④宝塚古墳（地元では「高塚古墳」と呼んでいます）

場所は小さな谷の南にのびる丘 陵の先端にあります。古墳の形は円墳で、直径およそ15メートル、高さはおよそ3メートルあります。墳丘の後側には丘 陵と古墳を区別する溝がわかります。埋葬施設は片袖式の横穴式石室で、南に向いています。石室は長さが7.7メートル、高さ2.25メートルもあり、天井に近い部分はだんだんと丸くなっていきます（これを持ち送りといいます）。この古墳からは馬具（馬につける飾り）や須恵器と呼ばれる焼き物、鉄の刀が見つっています。この古墳は見つかったものや、石室の形などから西暦550年より後につくられたと考えられています。また、この宝塚古墳の周りにもたくさんの古墳があり、それらをまとめて「小山田古墳群」と呼んでいます。宝塚古墳もこの小山田古墳群の中の一つですが、大きさや見つかったものから考えてこの古墳群の中心的な古墳ということが出来ます。

⑤ 狐塚古墳

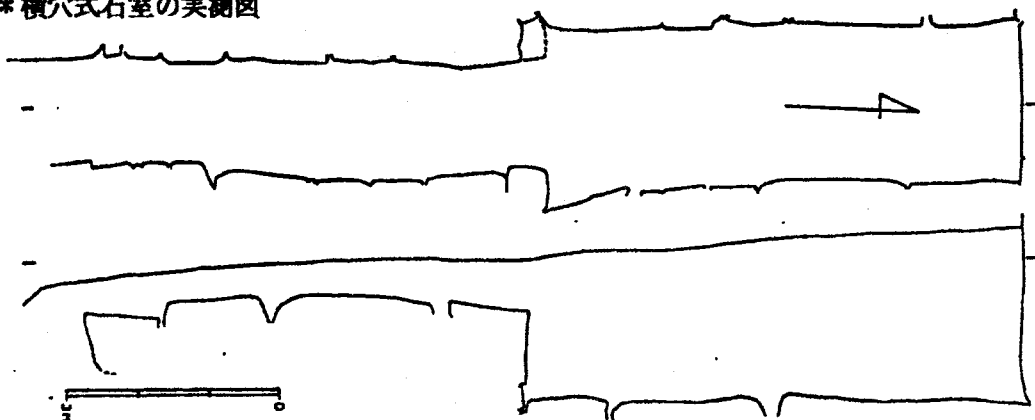
場所は宝塚古墳の東側の尾根の上にあります。古墳の土盛りは大部分ながれてしまい、袖のない細長い横穴式石室が見えていますが、後ろ側には古墳と丘陵を区別する溝が見られます。この古墳は、もとは直径約15メートル、高さは3メートルほどの円墳だったと考えられています。この古墳は西暦550年より後につくられたと考えられています。

⑥ 二子塚古墳（広島県史跡）

場所は、平野に向かって東にのびる丘陵の頂上につくられています。ここからは周辺の平野をほとんど見わたすことができます。古墳の形は前方後円墳で、長さは68メートルもあります。この古墳福山市周辺では最大の古墳で、しかも最後につくられた前方後円墳です。古墳の東側や北側には周濠（古墳を囲むようにつくられた溝）も残っています。埋葬施設は片袖式の横穴式石室で長さが13メートルもあります。この古墳に葬られた人はこの地域のトップのリーダーだと考えられています。この古墳は石室の特徴から西暦550年より後につくられたと考えられています。

上から見た図↓

よこあなしきせきしつ じつそくす
* 横穴式石室の実測図



よこあなしきせきしつ
横を見た図↑

